

福祉サービス第三者評価 評価結果

ベネッセチャイルドケアセンター市ヶ尾

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 1153-3

運営主体:株式会社 ベネッセスタイルケア

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～18 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	19～25 ページ
利用者本人調査分析	26～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2008年2月19日 公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ベネッセチャイルドケアセンター市ヶ尾		
報告書作成日	2008年1月31日	評価に要した期間	約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間: 2007年9月8日～11月7日</p>	<p>9月8日、園内にて、園長・主任より第三者評価の目的・概要を常勤・非常勤を含む全職員に説明。自己評価票を全職員に配布した。その際、評価機関からも説明・質疑応答を行った。職員一人ひとりが記入した自己評価票を参考に、園長・主任を中心にフリー保育士・各クラス代表・給食職員・事業本部職員でプロジェクトチームを作り、毎週の会議で各項目毎に協議、まとめる。</p> <p>まとめた内容を、園長・主任・事業本部職員で再度見直し、調整をした。</p> <p>調整した内容を、全職員に報告会（数回に分けて開催）にて説明し、最終調整を行ってまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:2007年10月1日～15日</p>	<p>全園児の保護者（44家族）に対して保育園側から手渡し。同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 2007年12月4日 第2日 2007年12月7日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスにて保育観察、その後、公園散歩に同行。 昼食：キンダークラス（3～5歳児）で園児と一緒にいただく。 午後：書類調査及び園長・主任に面接調査。 夕方は、降園の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は、登園の様子を観察。 各クラスにて保育観察、その後、公園散歩に同行。 昼食：キンダークラス（3～5歳児）で園児と一緒にいただく。 午後：各クラス担任の保育士4名、フリーの保育士、調理員、非常勤職員に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 2007年12月4日 第2日 2007年12月7日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。公園への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、5歳児以上の園児を中心に、観察調査時及び昼食同席時に、適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

ベネッセチャイルドケアセンター市ヶ尾は、東急田園都市線「市が尾」駅より徒歩2分の位置にあります。1994年（平成6年）10月、駅型保育園（認可外）として開設され、2004年（平成16年）8月に認可園となりました。運営法人は介護事業を中心に据える株式会社ベネッセスタイルケアです。定員は51名で、0歳児、1歳児、2歳児、3～5歳児と4クラスの編成です。

ベネッセチャイルドケアセンター市ヶ尾は、保育の理念「よりよく生きる力（Benesse）の基礎を育みます」のもと、4つの保育方針、3つの保育目標を定めて、日々、保育の実践に努めています。園舎は、6階建てのビルの2階にあり、テラスと共に南東に面しています。1階はスーパー、3階以上はオフィス及び住居となっています。各部屋は大変明るく清潔感に溢れ、レースのカーテンや天蓋は部屋に穏やかな雰囲気を作り出しています。

当園は、駅前商店街の中にありますが、通りの交通量は多くなく、静かな環境の中にあります。付近にはマンション、整備された商店街、更に、区役所、消防署、警察署、小学校、幼稚園、保育園等があり、青葉区の中心市街地の一つとなっています。近くには鶴見川が流れ、また散歩コースに適した多くの公園があり、自然環境にも恵まれています。

高く評価できる点

1．子どもたちは、温かな環境の中で、のびのびと元気良く育まれています

園のレイアウトは、園長・主任・保育士達と子どもたちが常にあいさつを交わせる環境となっています。語り合いの場が何時でも自由に作れる環境となっています。子どもたちは、温かな家庭的な雰囲気に包まれながら楽しく園生活を送っています。

乳児クラスの子供たちは、積み木、ブロック、プラレール、ままごと、お人形と、さまざまな遊びを楽しんでいます。そして、たびたび保育士から声かけしてもらって、とても嬉しそうです。公園では、砂場遊び、風船遊び、落ち葉をかけあったり、落ち葉の上に寝転がったり、保育士と小高い山を登ったり、元気一杯の動きです。

3～5歳児は異年齢児クラスです。登園後は積み木、カードゲーム、お絵かき、絵本等で自由に遊びます。遊びの輪の中では、5歳児はお兄さんお姉さんとして中心になっているように見えます。公園では、子どもたち自身が決めた、こおり鬼、リレーで遊びます。また、自由に山を登ったり駆け下ったり、探検ごっこ、と動きはとても活発です。

保育目標「自分で考えすすんで行動する子ども」「友だちと楽しく遊ぶ子ども」「感性豊かな子ども」が、保育士の温かな声かけと穏やかな見守りの中で実践されています。

2．保育士は、保育理念の実現に向け、実践に努めています

保育士は新任研修で、保育の理念、保育方針・目標を学びます。保育の現場に就いてからは、系列園同士で行われる見学実習や勉強会を通して、お互いの保育を見直し、保育の理念の実践に努めています。

さらに、保育士はケース会議の討議・情報交換を通して振り返りと自己研鑽に励んでいます。これらの取り組みは、年に3回行われる園長との個人面談において、自己の行動目標の設定と評価を行い確実なものにしています。

保育士は、子ども一人ひとりを大切にしたい保育、そして、子どもたちの「やりたい」「遊びたい」を大切にしたい保育を心がけています。

幼児クラスでは、その日の遊びや行事などを子どもたちで話し合い、決めることができるよう

にしています。例えば、朝の集まり（サークルタイム）で「公園では、今日の遊び何にする」とか、夏祭りの行事では、子どもたちでアイデアを出し合い、手作りでお店屋さんごっこを行えるように、進めています。

乳児クラスでは、保育士はトイレができたときには「良くできたね」と声をかけています。食事では一人ひとりと話しをしながら子どもの食べたい意欲を引き出して、午睡中は傍に居て様子を見ています。

保育方針「子どもの個性と人格を尊重します」「子どもが安定感・安心感・落ち着きをもてる室内環境をつくります」などが実践されているとうかがえます。

今回の第三者評価での利用者家族アンケートからも、子どもたちを大切にしてくれる保育士への感謝の言葉、信頼感が読み取れます。

3. 保護者との良好なコミュニケーションに努め、大きな信頼を得ています

職員は保護者とのコミュニケーションを大切にしています。

保育士は保護者に出来るだけ話しかけるように努めています。早朝・延長保育においても各クラスの担当保育士が在園するようにしています。各クラスの出入り口がオープン形式になっていることも、保護者との日常的な話し合い・意見交換を容易にしています。

0~2歳児には、個人連絡帳を通じて、園での様子と家庭での様子を記入して、1日の生活や成長の喜びを保護者と共有できるようにしています。

3~5歳児には、その日の出来事を写真を添えた掲示物で紹介し、保護者と子どもとのコミュニケーションのための話題を提供しています。さらに、年に3回、子どもの成長した姿を記録「季刊メッセージ」にまとめ、保護者へ伝えていきます。

年2回のクラス懇談会を通して、また、遠足・夏祭り・運動会の後にはアンケートをとり、保護者の意見や要望を受けとめ、日々の保育に反映しています。また、年1回、保護者アンケート（顧客満足度調査）を実施し、分析・評価を行って園の運営に反映しています。

改善や工夫が望まれる点

1、今後、園の専門性を活かした地域の子育て支援への取り組みが望まれます

地域の子育て支援に関しては、見学希望で園を訪れる親子から育児相談を受けたり、また、公園での地域の親子連れとの交流の中から子育ての相談を受けたりすることがあり、その際には丁寧に対応するように心がけています。ただし、より広い意味での地域の子育て支援については、園として今後の課題になっています。

当園では現在、区の研究会や園長会で地域の子育てニーズについての情報を得ています。子どもたちがよく利用する近くの公園の、公園愛護会にも積極的に参加し、地域との係わりを作ってきました。また、園の運営委員でもある民生・児童委員を通して地域の子育て支援等に係わる情報を収集し、定期的に意見交換を行っています。幼保小教育連携事業を通して近隣の保育園・幼稚園・小学校との交流を持ち、また、周辺の学童保育との交流も行うなど関係箇所との係わりも持っています。

現在、子どもを取り巻く社会環境の変化に対応して、保育所には地域における子育て支援の役割も求められています。今後は、行政機関や地域の活動団体、子育て支援に係わる人々等との情報交換や連携を進める中で、地域のニーズを掘り起こし、今まで蓄積された園の専門性を活かした地域の子育て支援への積極的な取り組みが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1、人権の尊重

- ◇ 事業主体である株式会社ベネッセスタイルケアの保育の理念「よりよく生きる力(Benesse)の基礎を育みます」、保育方針「子どもの個性と人格を尊重し、主体性を育てます」「自然な生活の営みの中で子どもが、安定感・安心感・落ち着きをもてる室内環境をつくります」などは、子ども本人を尊重したものになっています。
- ◇ 守秘義務の遵守、個人情報の取扱いに関しては、会社作成の「行動宣言」「行動基準」「個人情報ハンドブック」により職員に周知を図っています。また、ボランティアや実習生にも、オリエンテーション時に文書を渡し説明しています。
- ◇ 児童虐待については、研修などを通じて全職員が理解しています。また、常に子どもを観察し、虐待の予防と早期発見に努めています。なお、虐待が疑われる場合には、関係機関と連携が取れる体制となっています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育方針や保育目標は、子どもの自主性・主体性を育むものとなっています。保育目標に「自分で考えすすんで行動する、友達と楽しく遊ぶ子ども、感性豊かな子ども」を掲げ、子どもたちが主体的に活動できるよう、保育士は子どもの力を信じ温かく見守る姿勢で環境を形作っています。
- ◇ 子どもたちは、散歩の際に地域の人々とあいさつを交わすほか、近くの公園で開催する夏祭り、小学校の校庭を借用しての運動会など通して、地域の人々と交流しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保育方針や保育目標に基づき、保護者の実状にも配慮して作成しています。さらに地域の状況も考慮して作成しています。
- ◇ 指導計画の作成・評価・見直しにあたっては、職員会議・クラス会議等を通して全職員が関わり、子どもの発達や状況を考慮して対応しています。
- ◇ 第三者委員に直接苦情を申し立てることができるよう、園だよりを通して保護者へ伝えていきます。また、事務室前に意見箱を設置して書面での要望・苦情の申し入れに備えています。
- ◇ 健康管理、衛生管理、安全管理等に関する各種マニュアルを整備して、全職員に周知徹底を図っています。避難訓練も定期的に行い、事故や災害に対する緊急連絡体制も確立しています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 散歩先の公園で、園児たちと地域の親子連れとの交流をする中で、子育ての相談を受ける場合もあり、その場合には丁寧に対応するよう心がけています。ただし、地域における広い意味での子育て支援については、今後の課題として種々検討している段階です。
- ◇ 公園愛護会の会員として公園の清掃など維持管理に園児とともに参画する、行事の案内を公園の掲示板で案内するなど、地域との交流・連携に努めつつあります。
- ◇ 青葉区福祉保健センター、青葉区役所、また、幼保小教育連携事業を通して近隣の保育園・幼稚園・小学校などとの交流・連携を行っています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理等については、事業本部作成の「保育の考え方」の中に明記し、職員に周知徹底を図っています。
- ◇ 園長は重要な意思決定に際しては、関係職員・保護者等から情報・意見を集め、説明するしくみを取り入れています。
- ◇ 園の保育目標・保育方針を園内各所に明示し、職員に周知徹底を図っています。職員は、日々その実践に努めています。
- ◇ 園長は園の運営に影響のある情報を収集・分析し、外部環境の変化に対応して、保育目標や保育方針を実現するための取り組みを行っています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 各職員の要望も考慮した研修計画に基づき人材育成を実施しています。外部研修に積極的に参加するとともに系列園での研修会・勉強会も行っています。系列園で行なう見学実習は、お互いの保育を見直す機会となっています。研修の成果はまとめられ、次の計画に反映しています。
- ◇ 職員は、個々に資質向上に向けた目標を毎年定め、年3回の園長面接を通して達成度の確認・評価を受けています。
- ◇ 実習生の受け入れは事業本部が定めた基本方針に基づいて行っています。実習生には、主任が担当となり指導を行い、毎日、意見交換の機会を設けて、実習の成果を確かなものにしていきます。

分類・項目別評価結果

評価領域	利用者（子ども本人）の尊重	P 7
-------------	----------------------	------------

評価分類	- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成	7
	- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	8
	- 3 快適な施設環境の確保	8
	- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力	8
	- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	9
	- 6 苦情解決体制	9

評価領域	サービスの実施内容	P 10
-------------	------------------	-------------

評価分類	- 1 保育内容〔遊び・生活〕	10
	- 2 健康管理・衛生管理・安全管理	12
	- 3 人権の尊重	13
	- 4 保護者との交流・連携	14

評価領域	地域支援機能	P 15
-------------	---------------	-------------

評価分類	- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	15
	- 2 保育園の専門性を活かした相談機能	15

評価領域	開かれた運営	P 16
-------------	---------------	-------------

評価分類	- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	16
	- 2 サービス内容等に関する情報提供	16
	- 3 ボランティア・実習の受け入れ	16

評価領域	人材育成・援助技術の向上	P 17
-------------	---------------------	-------------

評価分類	- 1 職員の人材育成	17
	- 2 職員の技術の向上	17
	- 3 職員のモチベーションの維持	17

評価領域	経営管理	P 18
-------------	-------------	-------------

評価分類	- 1 経営における社会的責任	18
	- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	18
	- 3 効率的な運営	18

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1~6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none">・ 保育の理念「よりよく生きる力（Benesse）の基礎を育てる」、保育方針「子どもの個性と人格を尊重し、主体性を育てます」「自然な生活の営みの中で子どもが、安定感・安心感・落ち着きをもてる室内環境をつくります」などは、子ども一人ひとりの個性を尊重し、人との関わり、触れ合いを大切にしたものとなっています。・ 0~2歳児クラスにおいては、一人ひとりを尊重しながら安心できる環境の中で安定した生活を営み、人との信頼関係を築くことを大切にしています。また、3~5歳児クラスでは、一人ひとりを尊重しながら、異年齢での集団で、子どもが互いに認め合い育ち合う姿の中から、主体性を育てる保育を行っています。・ 保育の理念や保育方針等を記載した「保育の考え方」を全職員に配布し、職員採用時の新任研修では詳しく解説しています。更に、園内研修や会議などで園の事例を通して取り上げ、職員は実践に結び付けるように努めています。・ 保育計画は、保育の基本方針、地域の実態、周囲の環境などを考慮して作成しています。また、保護者の就労状況なども考慮して作成しています。・ 指導計画の作成にあたっては、日常の保育を通して子どもの気持ちや意思を汲み取る努力を行うと共に、子どもの主体性について、職員個々の考えを共有する機会を持ち、職員の対応をどうするかなど、一人ひとりの子どもの成長に対応するような、ゆったりとした柔軟な計画となるようにしています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・ 入園に際しては、系列保育園共通の入園書類に基づいて、保護者に必要事項を記載して頂くと共に、入園前には親子との個別面談を行っています。
- ・ 面接時確認された事項、観察した子どもの様子などは、関係する職員全員で共有し、指導計画にも盛り込んでいます。
- ・ 新入園児に対しては、子どもの様子を考慮して、担当の保育士を決めています。また、個人別連絡帳の中で、園生活の様子、家庭での様子を記載することにより、子どもの一日の生活の様子や、成長の姿を保護者と共有しています。
- ・ 指導計画（月間・週案）は、子どもの発達や状況に応じて、毎月のクラス会議において非常勤職員も参加して、作成・振り返りを行っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 子どもが快適に過ごせるような環境作りに種々の配慮を行っています。
- ・ 事業本部作成の「保育の考え方」及び「安全衛生基準」に基づき、園内外の清掃・整備、園舎の通風・換気等に努めています。換気については、朝、散歩に出かけた後や午睡の後等には窓を開けるなど、特に留意しています。
- ・ 各クラスには温度計・湿度計を備え、温・湿度の管理を行っています。冬季には加湿器を備えて適正な湿度維持を図っています。
- ・ 0歳児の保育室には沐浴設備、屋外には温水シャワー設備を設けています。「安全衛生基準」に基づき管理・清掃を適正に行っています。
- ・ 子どもが主体的に遊びを展開できるように、各クラスにはコーナーを設けています。食事のスペースは、清潔で落ち着いた空間とし、食事に集中できるように配慮しています。また、食卓に花を飾るなどの工夫をしています。
- ・ 3～5歳の子どもは異年齢児のクラス編成となっています。毎月のお誕生会には、3～5歳児クラスの部屋に0～2歳児も集まり、つどいの場として交流を図っています。また、季節の行事、日々の散歩は幼児と乳児の交流の場となっています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0～2歳児については、全員について、一人ひとりの子どもに合わせた個別指導計画を作成しています。3～5歳児についても、必要に応じて個別指導計画を作成しています。
- ・ 毎月開催するクラス会議において、当月の子どもの様子や保育について意見を交換し、共有すべき事項の確認等を行い、次月の計画の作成に活かしています。
- ・ 子ども一人ひとりに関する面談シート、発達記録などは個別のファイルで管理しています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・特に配慮を要する子どもを受け入れる体制をとって、個別指導計画や記録を作成し、担任保育士が責任を持って対応しています。また、外部の専門家による保育観察の機会を設けて、関わり方や配慮点についてアドバイスを受けています。これら専門家からの助言は、職員会議で共有しています。
- ・年度初めの職員会議で、アレルギー疾患のある子どもへの対応について話し合い、家庭と連携をとりながら除去食の進め方など随時確認しています。
- ・外国籍の子どもの受け入れにあたっては、違いを際立たせないよう、無理なく自然に生活できるように配慮しています。
- ・過去3年間に、障がいのある児童を受け入れた実績はありません。

- 6 苦情解決体制



- ・第三者委員の紹介、意見箱の設置、クラス懇談会の開催、保護者アンケートの実施などにより保護者からの要望や苦情を積極的に聞いています。さらに、年1回、顧客満足度調査を実施し、保育者、保育内容、施設環境等に分け、課題を整理し、日々の保育及び園の運営計画に反映させています。
- ・マニュアルが整備され、要望や苦情等には迅速に対応できる仕組みになっています。また、会社には法務部があり、苦情の内容や経緯によっては、必要に応じて顧問弁護士に相談できる体制があります。
- ・保護者からの要望や苦情を訴えやすい仕組みとして、「園のしおり」で苦情受付担当者（主任）を案内しています。ただし権利擁護機関など他機関の苦情受付窓口の紹介は、まだされていません。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 302 472 338">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具は自由に取り出して遊べるようになっており、子どもの興味や発達具合、季節等により適宜入れ替えています。 ・ 1、2歳児の保育室は、低い棚で仕切って個室の雰囲気を持たせたり、落ち着けるようにと天蓋を下げたりする等、年齢に応じた環境作りを心がけています。 ・ 子どもが自由に好きな遊具で遊べるように「構造の遊び」「ままごと」「思考の遊び」「製作の遊び」「絵本などの遊び」のコーナーを作っています。 ・ 保育士は、子どもたちの「やりたい」「遊びたい」を大切にしたい保育を心がけています。夏祭りには、3・4・5歳児は自分たちで話し合ったアイデアをもとに、必要な品物を手作りして、お店屋さんごっこをやり遂げました。 ・ 子どもたちは、朝の会（サークルタイム）で公園での今日の遊びについて話し合います。公園に行くと自分たちで決めた遊びを楽しみます。またリレーやおおろき等、ルールのある遊びや、自由に遊べる探検ごっこ、山登り、砂場遊び等でも熱中して遊びこんでいます。 ・ テラスで、プランターによる野菜栽培を体験しています。絵の入った観察日記を書いたり、収穫物をクッキングの時間に子どもたちが調理して食べるという体験をしています。 ・ 散歩等では地域の人々とあいさつを交わしたり、話しかけてもらったりしています。公園では、地域の親子連れと、お砂場セットの貸し借りをすることもあります。また、地域の農家の協力を得て芋ほり体験をしています。 ・ 折り紙、画用紙、空箱、ペーパーの芯、牛乳パック等が用意され、子どもはいつでも使用できます。子どもが描いた絵や作品は展示され、みんなに見てもらうことで意欲の向上をはかっています。 ・ 3・4・5歳児は、異年齢クラスです。3、4歳児は、5歳児を見て憧れを持ち、5歳児は、年長さんとしてリーダー的な役割を担ったりと家族のように過ごしています。 ・ 保育士は、子どもの視線を大切にしたい保育を心がけています。言葉が未発達な乳児の場合は気持ちを代弁して伝えています。 ・ 近くに特徴ある公園がたくさんあり、鉄棒をしたいときには鉄棒がある公園へいく等、子どもがやりたいことに合わせて、また体調も考慮しながら、毎日、散歩に出かけています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 3・4・5 歳児の給食では、調理員と保育士が、一人ひとりの子どもに話しかけながら、子どもの食べたいという意欲を引き出すとともに、嫌いなものでも少しだけ食べてみるように勧めるなど、直に触れ合いながら食事をよそっています。
- ・ 3・4・5 歳児クラスは、食卓に花を飾り、楽しい雰囲気の中で食事をしています。子どもたちは好きなテーブルに座っています。準備ができたテーブルから「いただきます」のあいさつをして食べ始めます。一人ひとりのペースを大事にしています。
- ・ 調理員は、0、1、2 歳児の食事中的各保育室をまわって喫食状況を把握しています。また、配膳時の様子で3、4、5 歳児の好き嫌いを把握し、献立、盛り付け、調理方法を工夫しています。
- ・ 献立は、系列保育園共通の献立です。献立の作成については、事業本部で2ヶ月に一度、献立検討会を開き、管理栄養士等の意見を元に随時見直しや調理の改善方法についての検討を行っています。
- ・ 毎月発行の「もぐもぐ通信」には、離乳食版、幼児版、夕食版が掲載されています。また、季節の食材の紹介や、「簡単クッキング」として作り方を紹介する等、保護者に食への関心を持ってもらうように工夫しています。
- ・ 玄関には、当日の給食、おやつ展示をしています。また、保護者が持ち帰りできるようにレシピや食育に関する情報などを用意して提供しています。
- ・ 食に関する保護者アンケートを実施し、家庭での子どもの食事の様子を把握し、保育の参考にしています。
- ・ 0 歳児は、乳幼児突然死症候群（SIDS）予防のために10分ごとに呼吸チェックをし、記録を取っています。1、2 歳児は、保育士が必ずそばに居てできるだけ仰向けに寝かせるように気をつけています。
- ・ 午睡は、休息の時間として位置づけており、子どもの様子を見ながら、また家庭の状況も聞きながら適切な長さになるように心がけています。眠れない子どもには無理強いをせず、別の場所で絵本を見たり、静かな遊びをして過ごすようにしています。
- ・ 0 歳児の場合、オムツ替えの手順を書いた用紙をオムツ交換台のそばに掲示して、どの保育士がオムツを替えても同じ対応ができるようにしています。
- ・ トイレトレーニングは、園での子どもの様子を見て家庭と協力しながら進めています。
- ・ 2 歳児は、排泄の間隔をチェック表に記録、個人差を大切にしながらトイレへの声かけをしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあります。また、既往症、予防接種、アレルギー、健康診断測定結果等については個別の健康台帳に記載し、子どもの健康状態を把握しています。
- ・ 既往症やアレルギーについての情報は、保護者からの入園時アンケートで把握し、さらに職員会議で話し合い、全職員が理解しています。
- ・ 一人ひとりの健康診断、歯科健診の記録があり個別ファイルに保管しています。健診の結果は保護者に見てもらい、確認サインをもらって健診結果を確実に保護者へ伝えるようにしています。
- ・ 年に一度、歯科健診を実施し、歯科衛生士による歯磨き指導を受けています。食後は、0、1、2歳児はお茶を飲み、3歳児はうがいをします。4、5歳児は歯磨きコーナーでイスに座って歯磨きをし、保育士から仕上がりを確認してもらっています。
- ・ 感染症等対応マニュアルがあり、各クラスに備え職員には周知しています。職員はマニュアルに則った対応をしています。園のしおりにも感染症についての詳しい説明が掲載されています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]




- ・ 「安全衛生基準」というマニュアルがあり、新人研修でこれについて学び、さらに職員会議で読み合わせをして周知徹底を図っています。
- ・ 各クラスには具体的な手順を記載した清掃マニュアルを備え、さらに保育室・トイレには清掃チェック表を掲示し記入することにより清掃漏れを防止しています。
- ・ 定期的に外部の清掃専門業者に依頼し、保育室内外の清掃を行うとともに、その結果によって清掃方法を見直すしくみがあります。
- ・ 子どもも保育士も、散歩から戻ったら、うがい・手洗いを徹底するようにしています。手洗い後は安全衛生面を考え、ペーパータオルを使用するなどしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 「安全衛生基準」というマニュアルがあり、各クラスに備えられています。
- ・ 避難訓練は毎月実施し、実施後は職員間で反省会を行い、災害時備蓄品の確認も行っています。
- ・ 月の初めと終わりに、避難経路についての安全点検を実施し、消火栓の上にバギーを停めていないか、危ないものが通路に無いかなどについて調査しています。
- ・ 各クラスには避難経路図を、事務カウンターには避難経路図および自衛消防組織図を掲示し、緊急時に備えています。
- ・ 災害伝言ダイヤル 171 の活用について、園だよりやお便りでも保護者へ知らせ、試してみるように勧めています。
- ・ 保護者がいつも携帯できるようにと、緊急連絡先を記した名刺型の緊急連絡カードを渡しています。
- ・ 全職員が、年1回、外部講師から救急救命法（乳幼児救命方法）の講習を受けています。同時に、噛み付き・打撲・鼻血等についての手当て法も学んでいます。
- ・ 事故やケガの時、園医や医療機関の診察を受けられるように、医療



	<p>機関の一覧表を作成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガの発生は、「けが病気レポート」に記載し、その写しを保護者にも渡し、直接説明しています。 ・門にはテンキー、モニター付きインターホンを設置しています。門は常時施錠しています。 ・不審者対策として防犯スプレーを準備し、各保育室には携帯電話を常置しています。散歩には防犯ブザーと携帯電話を持って出かける等、緊急事態に備えるようにしています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は、子ども一人ひとりの名前を大切なものと自覚し、子どもと話すときにはきちんと名前を呼び、目と目を合わせるようにして話しかけるように心がけています。 ・会社作成の「行動宣言」「行動基準」を全職員に配布し、倫理基準・守秘義務の意義などについて記載しています。職員は子どもへの接し方、態度等について学び、子どもの人格を尊重して接するように心がけています。園内研修でもさらにそれらを取り上げて学習しています。 ・コーナーやついたて等で保育室を仕切り、子どもが安心して落ち着いて過ごせるように環境を整えています。 ・個人情報の取り扱いについては、「園だより」で保護者に説明しています。園内の掲示物や園だよりの中で、個人情報となる記載は最小限に止めています。 ・個人情報が記載されている書類の園外持ち出しを禁じています。また、個人情報を含む書類は、施錠できる書庫に保管しています。 ・園のパソコンは、暗号化ソフトを利用し情報が漏れないようにするとともに、パソコンにはワイヤーロックをかけて持ち出せないようにしています。 ・虐待の定義は、「保育の考え方」というマニュアルに則り、職員会議で読みあわせをして共有するとともに、青葉区福祉保健センターや、児童相談所との連携もとっています。 ・職員は、虐待についての研修を受け、毎朝「健康観察チェックリスト」により、子どもの様子に気をつけ、虐待等が早く察知できるように心がけています。 ・遊びや、役割、順番、グループ分け等では、男女の性別で区別することが無いようにしています。 ・保育士は、子ども一人ひとりの意思を尊重した保育を心がけています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 保護者が保育の基本方針を理解できるように玄関に保育理念・保育方針・保育目標を掲示しています。
- ・ 玄関の分かりやすい所に意見箱を設置したり、保護者に向けて年 1 回「顧客満足度調査」を行い、その際に、保育方針や目標が理解されているかどうかを把握し、その結果を保育に活かすようにしています。
- ・ 入園時に配布する園のしおりやパンフレット、入園説明会、クラス懇談会、園だより等でも保育方針について説明しています。
- ・ 職員は、送迎時にできるだけ会話をし、保護者と連携をとるように心がけています。また、0、1、2 歳児クラスでは、毎日、個人別連絡帳で子どもの様子を保護者と共有し、3・4・5 歳児クラスでは、毎日、その日のクラスの活動の様子を写真を付けて保育室に掲示しています。
- ・ 年 2 回のクラス懇談会、年 1 回の個人面談を実施して子どもの様子を保護者へ伝えていきます。なお懇談会や、面談の日程についてはできるだけ保護者の要望に沿うようにしています。
- ・ 保護者からの相談は、担任や主任、園長が対応しています。相談は、内容により個室で対応しています。園長・主任が受けた相談事は、内容によってクラス担任にも伝えていきます。相談は記録をとり、継続的にフォローしています。
- ・ 園だより、クラスだよりを毎月発行し、クラスの様子や月の行事、保育内容等を分かりやすく掲載しています。またビデオや写真を利用して子どもの成長を保護者に紹介しています。
- ・ 行事予定は、半年ごとに保護者へ伝えていますが、今後は年度当初に年間予定として伝える予定です。
- ・ 保育参観や、懇談会に出席できなかった保護者へはお便りを配布して様子を伝えていきます。
- ・ 運動会等の保護者参加行事の後には、アンケートを実施し、分析・検討して今後の保育に反映するようにしています。
- ・ 園の入口はオープン形式になっており、事務所が入口の横にあるので、園長、主任、事務職員がいつも近くに居て、保護者とは日常的に話がしやすく意見の交換もスムーズにできています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援ニーズについては、園の運営委員である民生・児童委員から地域の情報を得たり、区の研究会や園長会で、地域ニーズの情報を収集しています。園長は、これらの情報について職員会議で報告し、ニーズを職員間で共有できるようにしています。 ・ 公園での地域の親子連れとの交流の中で、保育士は相談を受けることがあり、子育て支援のニーズが潜在していると感じています。今後はニーズを掘り起こし、施設の専門性を活かした積極的な取り組みが望まれます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の行事等については地域の人に向け、園の入口の掲示板や近くの公園の掲示板でも情報を提供しています。 ・ 育児相談等はまだ実施していません。ただし、園見学に訪れた保護者には丁寧に相談に応じたり説明をしています。 ・ 関係機関や、地域団体のリストを整備し、相談内容に応じて連携できるようになっています。また、その連携は、園長・主任が担当しています。 ・ 園だけで解決が困難な場合は、青葉区福祉保健センターに相談し、担当者の訪問を受ける等、日常的に連携がとれています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の行事に地域住民を招待したり、茶道の先生に子どものお茶会を開いてもらったりなどの交流を行っています。 ・園長や主任は、「幼保小教育連携事業」の会議に参加し、意見の交換を通して小学校との連携をとるよう努めています。 ・園児達がいつも利用している地域の公園の整備等について話し合う「公園愛護会」に参加し、公園清掃や花壇作りなどに協力する等、近隣との友好な関係作りを心がけています。 ・夏祭りには近くの公園を借用しています。運動会では、小学校の校庭を借りています。 ・マンションの清掃をする人や近くのスーパー等の店の人とも親しくあいさつを交わしています。保育園の近くにある学童保育所の子どもたちとの交流を行って、地域との日常的な交流を通して園生活の充実をはかっています。 ・今年目標の一つに、園児と地域で働く人との交流を掲げ、消防署の出初式を見学に行ったり、消防署の見学を行った際には消防士の人たちとの交流を持ちました。 ・地域への施設開放や物品の貸し出しは、まだ行っていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業本部作成のホームページやパンフレット等で、保育や施設等についての情報を提供しています。 ・横浜市ホームページの「ヨコハマはぴねすぱっと」、子育て情報誌「ドレドレ」「横浜市暮らしのガイド」に情報を提供しています。 ・見学者には、園内を案内し、パンフレットを渡して園の方針・定員・職員体制等について丁寧に説明しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生の受け入れは、事業本部で定める基本方針に則り、保育に支障がない限り受け入れる体制です。 ・ボランティア希望者には、基本方針に則り説明をし、その後活動に入ってもらいます。ボランティア終了後は、感想や気づいたこと等を所定の用紙に記入してもらっています。これまでにひな祭りには茶道の先生、夏祭りにはジャグリングサークルの人たち、社会体験ボランティアとして新任の高校教師を受入れました。 ・園には実習のためのプログラムがあり、実習生は、事前に園内研修を受けてから実習に入ります。昨年は2名の実習生を受け入れました。実習生には、毎日感想を聞き、実習日誌を提出してもらっています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の採用は事業本部が一括して行っています。職員の選考においては「ベネッセの保育理念に共感できる人であるか」を考慮しています。 ・ そして、保育理念を踏まえた保育を実施できるよう、人材育成計画を策定しています。 ・ 常勤職員・非常勤職員とも研修体制が確立していて、市・区や外部機関が主催の研修会に参加するほか、事業本部が開催する内部研修会、系列園内での勉強会・見学実習などを行い、職員の資質向上に努めています。また、研修の成果は所定のレポートにまとめ、職員間で共有し、実践に活かしています。 ・ 非常勤職員に対しても、保育目標、方針等を記載してある「保育の考え方」を配布し、採用時の新任研修で詳しく説明しています。非常勤職員も含めた全職員向け研修を年 2 回開催している他、外部の研修への参加も促しています。クラス会議には、非常勤職員も参加し、共通認識のもとで保育を行っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のクラス会議においては、その月の保育を振り返り、クラス内の問題を協議し対策を立てています。また、クラス会議の中で行う保育の見直しを、個々の職員のスキルの問題としてとらえ常に自己評価を行っています。 ・ 系列園内の研修としては見学実習やテーマ毎の勉強会を行って、お互いの保育技術や保育方法を学び・見直す機会を設けています。 ・ 必要に応じて、外部から保育の技術の評価・指導を受けるしくみを設けています。現在は、特別に配慮を要する子どもについての、個別の留意点などのアドバイスを定期的に受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職員に対する役割等は、人事制度の中で期待水準として明文化されています。 ・ 職員には、園児の状況に応じて自主的に判断できるように、可能な限り権限を委譲し、責任を明確にしています。 ・ 園長は、職員会議の他、年 3 回実施の個人面談で職員からの意見を受けとめています。また、年 1 回実施する職員満足度調査を通して、職員の要望や課題を明確にして、現場に反映させるようにしています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者として守るべき法・規範・倫理については、会社が作成している「行動宣言」「行動基準」に記載し、個人情報保護については「個人情報保護ハンドブック」に記載して、職員全員に配布し説明しています。また、園内研修などの機会にこれらを取り上げ、実践に結び付けて理解を深めています。 ・ 使用済み用紙の裏面を利用する、牛乳パックを子どもの製作遊びに利用するなど、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。また、空調の温度設定の適正化や電灯を小まめに消すなどして、園全体で節電に努めています。 ・ 環境への考え方や取り組みが、各文書の中に、明文化され運営に活かされています。 ・ 園の経営・運営状況等についての情報を公開することは行っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育目標や方針は、事業本部作成の「保育の考え方」の中に記述して全職員に配布し、周知を図っています。また、保育目標や方針は、職員会議、園内研修や系列園同士の勉強会において、事例を取り上げ実践に結びつけて理解を深めています。 ・ 2004年に認可園へ移行した時など、重要な案件は職員会議において取り扱い、「園だより」や「お知らせ文」の配布や掲示により、保護者にも伝えていきます。また、保護者も参加する年2回の運営委員会において、重要な意思決定や変更については目的、理由、経過等を説明し、必要に応じて話し合いを行っています。 ・ 主任は、系列園での主任研修会などで学び、力量の向上を図っています。そして、各クラスの保育を定期的に観察する機会を作って、個々の職員の業務状況を把握し、的確な助言や指導ができるしくみとなっています。また、主任は、各職員とコミュニケーションを取りながら、職員が気持ちよく働くことができるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は毎月の事業本部が開催する系列園の園長会、青葉区の園長会、外部の会議や研修などを通して、園の運営に影響のある情報を収集・分析し、重要な情報は職員会議等で取り上げ、必要により重点改善課題としています。 ・ 事業本部においては、次代の組織運営に備え、運営やサービスについての検討、また、幹部職員の計画的育成についての検討など、中長期計画を策定しています。 ・ なお、事業本部には、保育の様々な分野の専門家を外部顧問として、行政や業界の動向についての情報を収集し、園に伝えています。また、外部の専門家が園を訪れて、日々の保育についてのアドバイスを行う機会も設けています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2007年10月1日～10月15日
- 2、実施方法 事業者（園）から全園児の保護者に直接配付（手渡し）
各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。
- 3、回収率 約97.7%（44枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...6人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...6人、
4歳児クラス...9人、5歳児クラス...5人
ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、「下の子どものクラス」について回答。

設問ごとの特徴

【問1】園の基本理念や基本方針について

保育目標や保育方針について保護者の90%が知っていると答えています。また、知っていると答えた人の中で約95%が賛同できると答えました。

*数値は「よく知っている」と「まあ知っている」、「賛同できる」と「まあ賛同できる」をそれぞれ合計したものの。

【問2】入園時の状況について

入園時の面接などでお子さんの様子や生育暦を聞く対応についてや、保育園での一日の過ごし方についての説明については93%が満足と答えています。

*数値は「満足」と「どちらかといえば満足」を合計したものの。以下同様。

【問3】年間計画について

年間の保育や行事の説明については約90%が満足しています。保護者の要望が活かされているかについては約80%が満足と答えています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

保育内容「遊び」については90%以上が満足と答えています。「生活」では給食の献立内容には100%が満足しています。子ども達も給食を楽しんでいます。子どもの体調への配慮については95%が満足していて、基本的な生活習慣への取り組みについても98%が満足と答えています。

【問5】快適さや安全対策などについて

感染症の発生やそれらの情報提供には95%が満足しています。快適さや安全対策については、約80%が満足と答えていますが、園舎が狭い、園庭が無い、不審者侵入が不安という声もありました。

【問6】保護者との連携・交流について

園だよりによる情報提供や保護者からの相談事への対応、お迎え等についての柔軟な対応については、90%以上が満足と答えています。「いつでも相談にのってくれる」「先生の方から声を掛けてくれる」という満足な声の反面、「もう少しゆっくりと話したい」という声もありました。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされている」「子どもが園生活を楽しんでいる」「先生は話しやすい」と答えた人が95%以上です。意見や要望への対応についても90%が満足と答えています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

95%以上の保護者が満足と答えています。

まとめ

◇ 総合的に見て保護者は、子どもたちの毎日の園生活に満足している様子が伺えます。自由意見には、「満足している」「先生たちがよくしてくれる」「保育士の感じがいい」「卒園しても行事に参加したい」等の声があります。反面「園庭があれば更に良い」「他の保護者と会う機会が欲しい」「保育士ともっと話がしてみたい」等の声も少しですがありました。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間： 2007年10月1日～15日

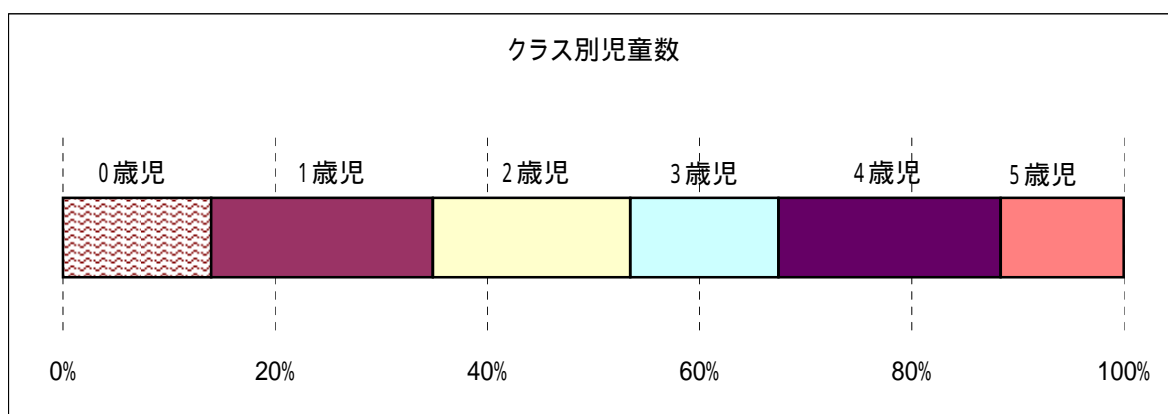
回収率： 97.7% （回収43枚 / 配布44枚）

【属性】

クラス別児童数

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どもで記入

合計	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答
43	6	9	8	6	9	5	0



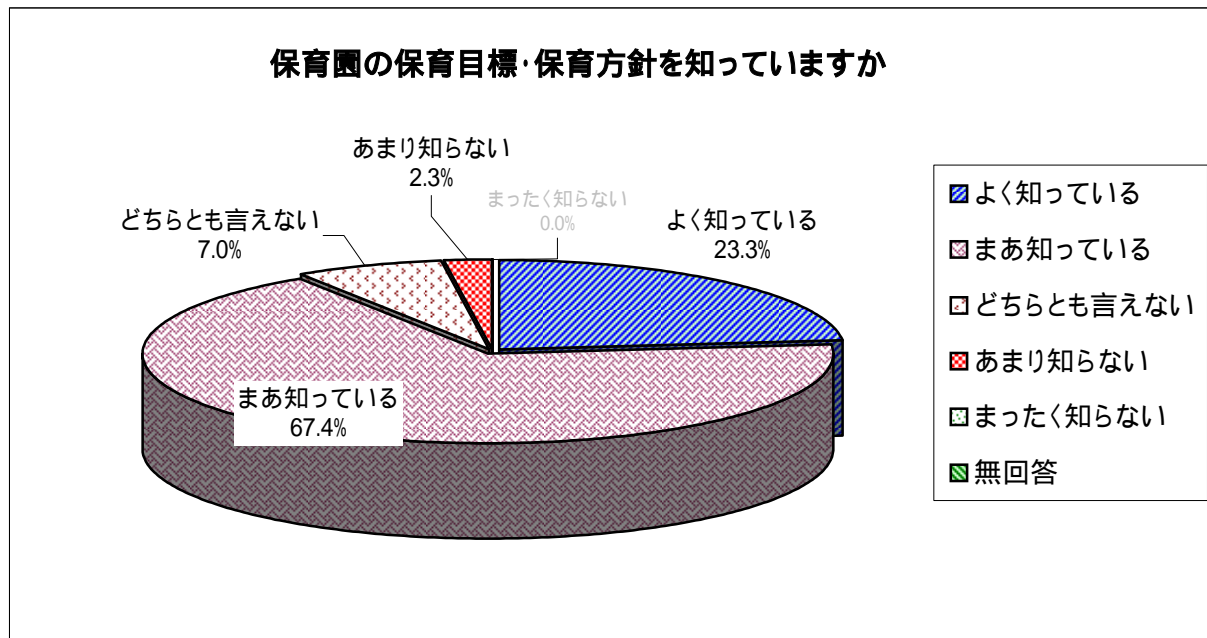
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	23.3	67.4	7.0	2.3	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

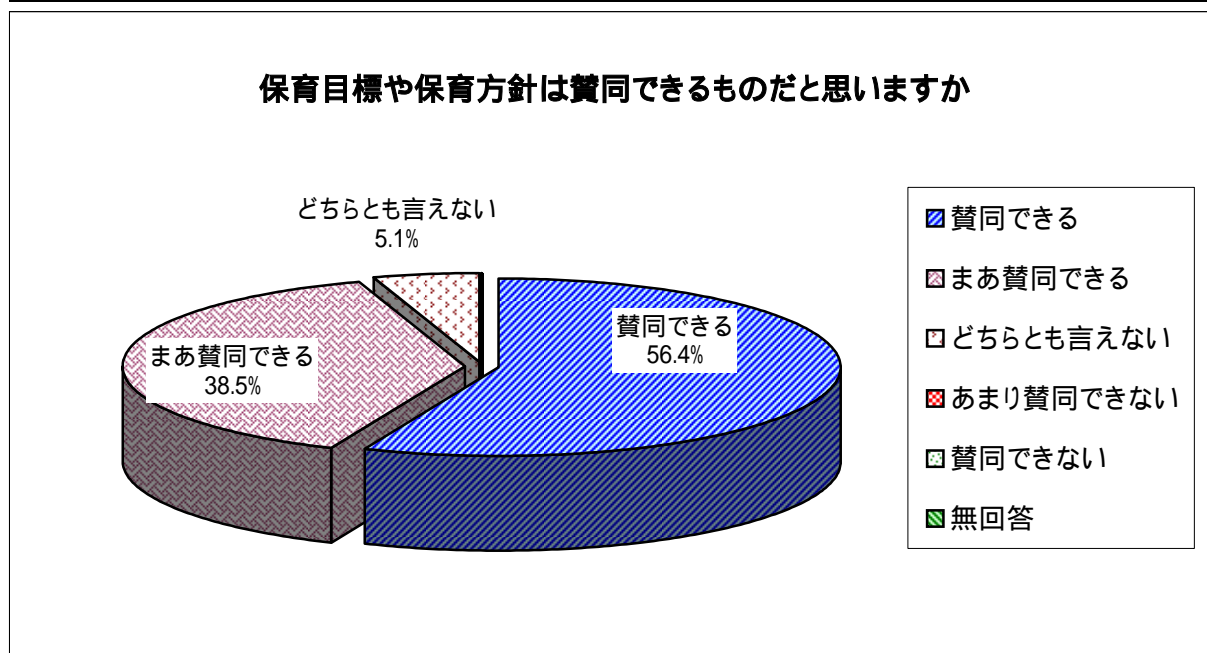


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	56.4	38.5	5.1	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

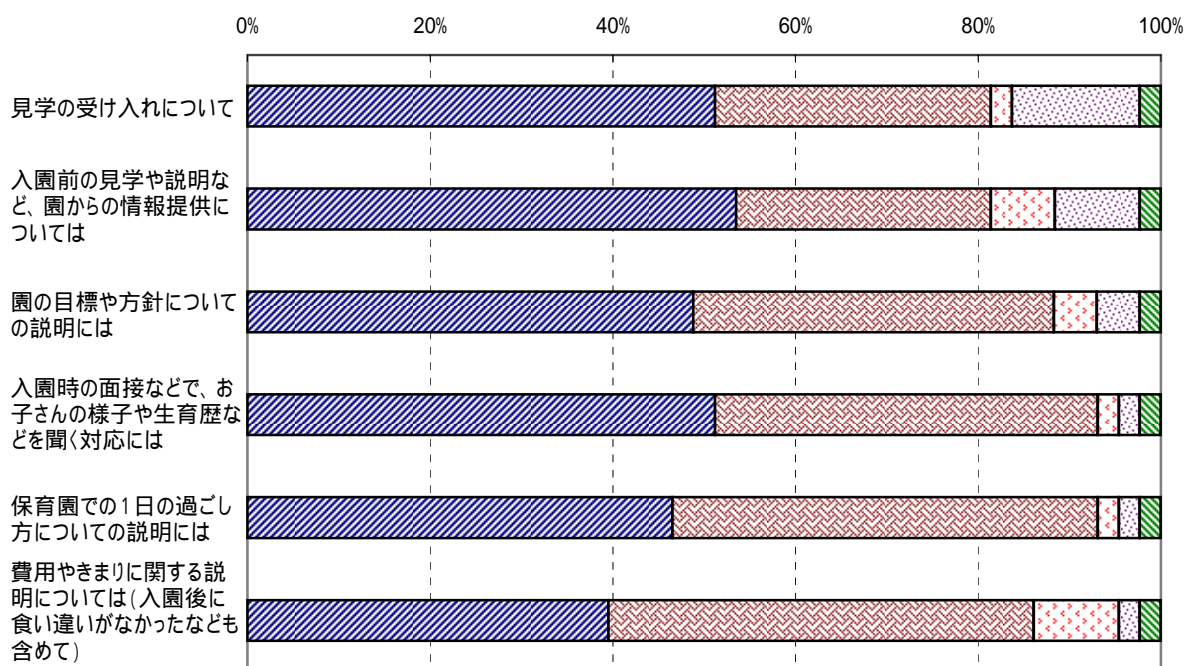
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	51.2	30.2	2.3	0.0	14.0	2.3	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	53.5	27.9	7.0	0.0	9.3	2.3	100
園の目標や方針についての説明には	48.8	39.5	4.7	0.0	4.7	2.3	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	51.2	41.9	2.3	0.0	2.3	2.3	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	46.5	46.5	2.3	0.0	2.3	2.3	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	39.5	46.5	9.3	0.0	2.3	2.3	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



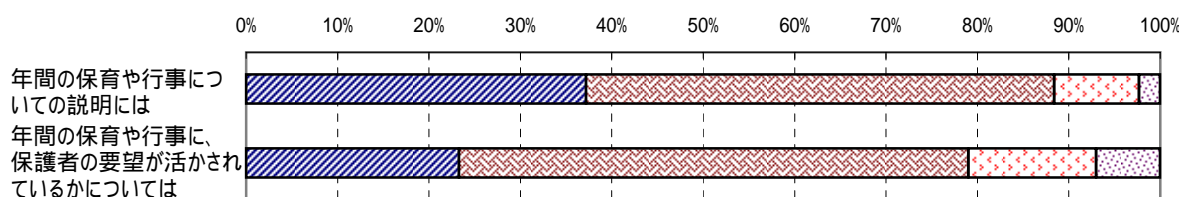
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	37.2	51.2	9.3	0.0	2.3	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23.3	55.8	14.0	0.0	7.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

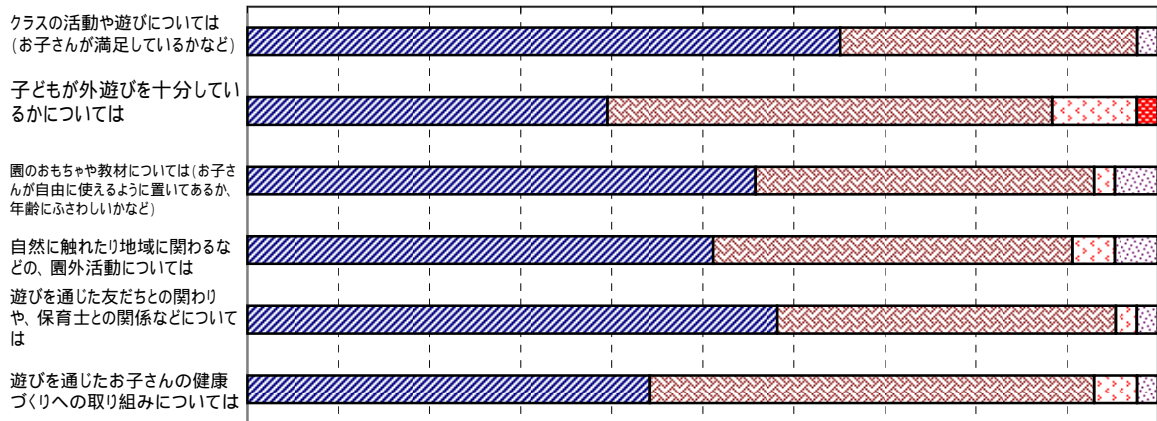
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	65.1	32.6	0.0	0.0	2.3	0.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	39.5	48.8	9.3	2.3	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	55.8	37.2	2.3	0.0	4.7	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	51.2	39.5	4.7	0.0	4.7	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	58.1	37.2	2.3	0.0	2.3	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	44.2	48.8	4.7	0.0	2.3	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



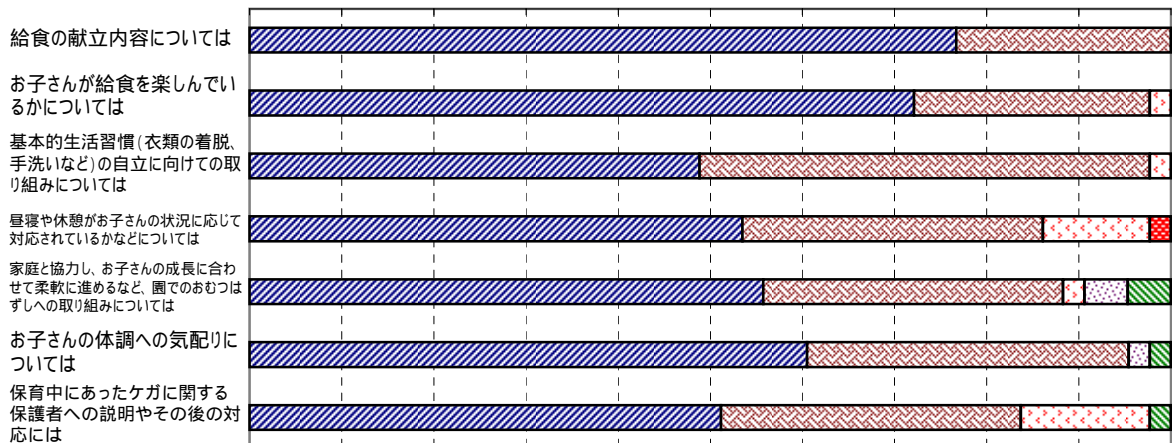
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	76.7	23.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	72.1	25.6	2.3	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	48.8	48.8	2.3	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	53.5	32.6	11.6	2.3	0.0	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	55.8	32.6	2.3	0.0	4.7	4.7	100
お子さんの体調への気配りについては	60.5	34.9	0.0	0.0	2.3	2.3	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	51.2	32.6	14.0	0.0	0.0	2.3	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



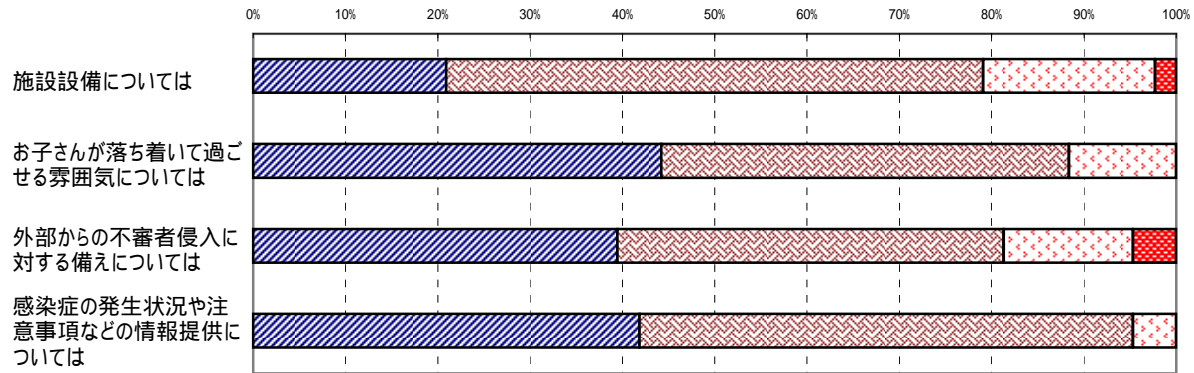
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	20.9	58.1	18.6	2.3	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	44.2	44.2	11.6	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	39.5	41.9	14.0	4.7	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	41.9	53.5	4.7	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



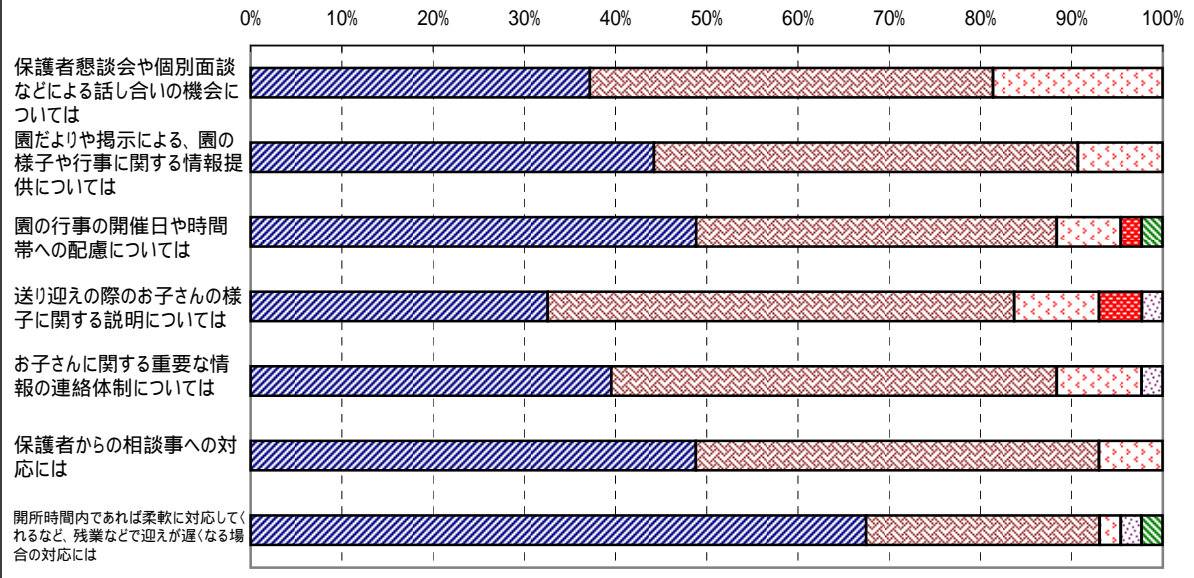
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	37.2	44.2	18.6	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	44.2	46.5	9.3	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	48.8	39.5	7.0	2.3	0.0	2.3	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	32.6	51.2	9.3	4.7	2.3	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	39.5	48.8	9.3	0.0	2.3	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	48.8	44.2	7.0	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	67.4	25.6	2.3	0.0	2.3	2.3	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

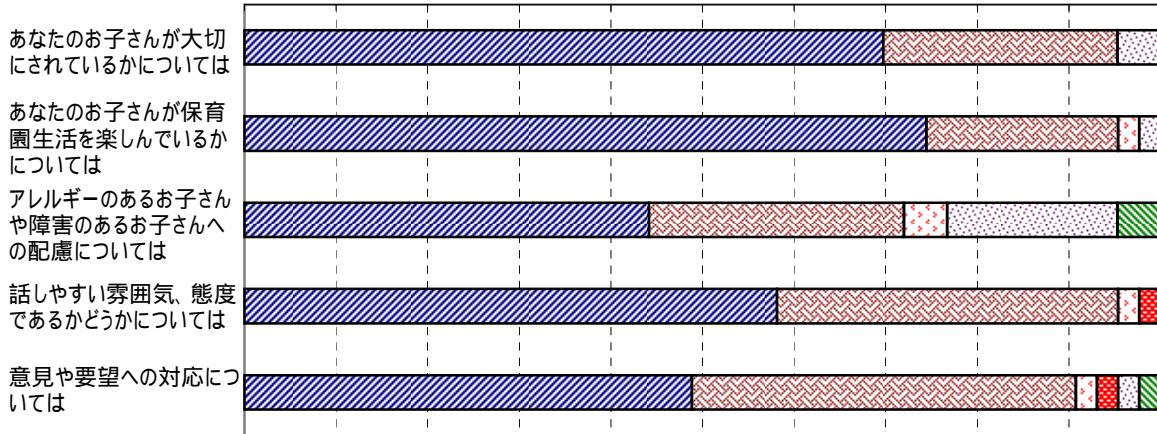
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	69.8	25.6	0.0	0.0	4.7	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	74.4	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	44.2	27.9	4.7	0.0	18.6	4.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	58.1	37.2	2.3	2.3	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	48.8	41.9	2.3	2.3	2.3	2.3	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

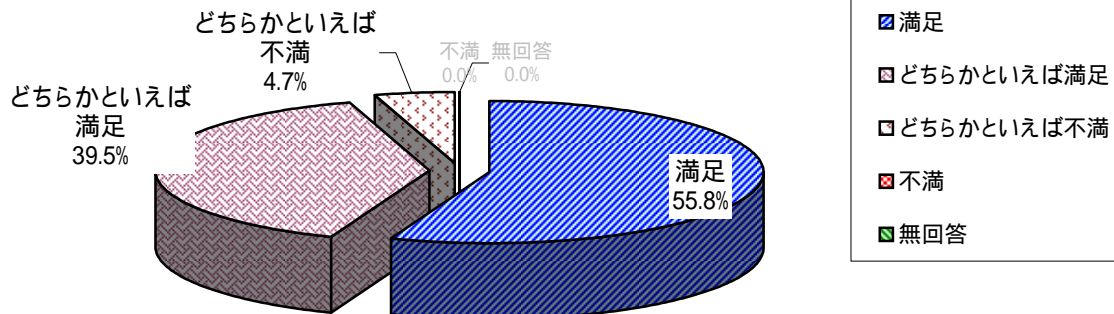


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	55.8	39.5	4.7	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 2007年12月4日（火）、12月7日（金）

観察中、3才児以上のクラスを中心に、適宜、園児からの聞き取りを行いました。

0歳児クラス

登園すると子どもたちは、自由に遊んでいます。保育士が歌う「だるまさん」「汽車ぼっぼ」の歌にあわせてうれしそうにまねをしたり、別の子は、保育士手作りの低い階段に登ったり降りたり得意そうです。ままごとでは、一人の子がお椀に入れたビーズをしゃもじでかき回し、ご飯ができたとお気に入りの様子でしたが、次第に仲間が増え4人でそれぞれにままごと遊びを楽しんでいます。積み木を高く積み上げた子どもは、保育士から「上手に積めたね」「すごいね」と言われて嬉しそうです。遊んでいる子どもたちのそばには、いつも保育士が見守っています。

日課の散歩は、カートとバギーに乗って公園までの道を楽しみます。公園に着くと保育士といっしょに公園の中を歩いて行き、持参した砂場遊びの遊具でそれぞれ自由に砂場で遊びます。

帰る前に、濡れフキンで汚れた手を拭いてもらいます。保育園に戻ると保育士は自ら手洗いうがいをし、その後、子どもたちのオムツ替え、着替えの手伝いをします。子どもはそれぞれに保育士と会話をしながら、紙パンツをはいたり、オムツ台でオムツを替えてもらっています。

食事は、保育士と向き合ってお昼ご飯を食べます。順番が来るまで他の子どもたちは、他の保育士と遊んで待っています。順番が来ると嬉しそうにエプロンを着け、スプーンを使って食べています。食事中は、保育士と語らいながら美味しそうに食べています。食事が済むとしばらく遊んで、コット（ベッド）に横になりお昼寝です。眠れない子どもは寝付くまで、保育士から歌を歌ってもらったり身体をさすってもらっています。子どもたちが安心して過ごしている様子が伺えました。

1歳児クラス

登園後、積み木、ブロック、パズル、風船、プラレール等で自由に遊びます。

ままごとコーナーでは、ブロックをお菓子に見立てて「ケーキ屋さん」と言いながらお皿に盛り付けています。おもちゃの取りあいがありました。保育士が間に入り、子ども自らが「貸して」と言い、また貸す方の子どもも「いいよ」と言っておもちゃの貸し借りがうまくできました。

日課になっている散歩に行く前には排泄を済ませます。トイレの前のコーナーでパンツを自分で脱ぎます。トイレ便座に座ってみて「おしっこ出たー」と子どもが得意そうに言うと、保育士から「すごい」と褒められて嬉しそうな笑顔です。鼻水が出るとティッシュをもらい、自分で鼻をかみました。

散歩に行くためにジャンパーのファスナーを自分で上げようとして頑張っている子や、嬉しそうにはしゃいでいる子など元気一杯です。公園まで歩いていく子は、保育士に手をつないでもらって園の階段をゆっくりと降りることができました。公園に行く途中で清掃のおばさんに声をかけられていました。公園ではボール遊び、落ち葉遊び、砂場遊びを楽しみ、山登りにも挑戦しました。帰りには、公園の水道で手を洗いペーパータオルで手を拭きました。手を洗う時には一列に並んで順番を待つことができました。

園に帰ると汚れた服を着替え、オムツを替えてもらったり、トイレを済ませます。手を洗って着替えが済んだ子どもから食事です。子どもたちは、保育士から見守られながら食事をしました。

2歳児クラス

園児は、登園するとブロックや人形、絵本を見て自由に遊んでいます。散歩に行く前には保育士からトイレに行くように促され順番に排泄を済ませます。トイレトレーニング中の子ども、既にオムツが取れた子どもと個人差があるようです。

みんなが登園したところで、日課の散歩に行きました。大きな樹木の落ち葉で公園は埋まっています。子どもたちは、落ち葉を放り上げては頭の上からさらさらと落ちてくる葉に大喜びしたり、落ち葉の上に寝転んだりして遊びます。山の斜面を上手に登ったり降りたりして得意そうな子もいます。

散歩から帰った後、子どもたちは部屋の中の水道で手を洗い、うがいをします。その後公園で遊んで汚れた服を着替えました。昼食は、食事コーナーでテーブルを2つ並べて4名ずつ、美味しそうにそして熱心に、保育士が見守る中で食べています。

毎日の散歩や公園での自由な遊びでは、どの子も楽しそうに満足して過ごしている様子が見受けられました。

3・4・5歳児クラス

異年齢児クラスです。登園後は積み木、カードゲーム、お絵描き、絵本等で自由に遊びます。朝の会(サークルタイム)で歌を歌った後、今日の日付、曜日、天気等を述べあい、お休みの子の確認をします。それから「今日はどこの公園に行こうか」「今日の遊びは何にする」と皆で考え、意見を出しあって決めます。

公園に着くと、皆で公園の落ち葉を掃除し、大きな袋に詰めて公園をきれいにします。それから朝の会でみんなで決めた遊び「こおり鬼」「リレー」をするために、保育士は、落ち葉が無くなった地面に大きな円を引きました。リレーは、3・4・5歳児が混合で2班に分かれて走ります。子どもたちは友だちの声援を受けながら元気に走ります。その後、3、4歳児は木登り、虫探し、朝顔の種取り、山登り、砂場等で自由に遊び、5歳児は探検ごっこに夢中で、公園の端にある崖っぶちを並んで歩き、坂を下りたり登ったり、背の高い草の中を進んだり冒険ごっこを楽しみました。

散歩から帰ると外の手洗い場で手を洗い、備え付けのペーパータオルで手を拭き、うがい用のコップでうがいをします。それから室内に入り遊びで汚れた服を着替えました。

昼食の時間は、着替え、手洗いが済み、テーブルにつきます。テーブルの席は決まっておらず、好きなところに自由に座ります。保育士から呼ばれると調理員の待つテーブルに行き、好きな量を自分で言ってご飯、おかず、汁物、デザートをよそってもらいます。苦手な食べ物の場合は、「お魚は少しだけ」「野菜は少しに」と言うと、調理員から「じゃあ少しにしようね。残さないでね」と優しく言われ、食事を残す子どもはほとんどいませんでした。食事中はおしゃべりを楽しみながらにぎやかに食べていました。

子供同士のけんかやもめごとはほとんど見ることはありません。5歳児はお兄さん、お姉さんとしての自覚が育っており、3、4歳児は5歳児に親しみながらも尊敬している様子が見受けられます。

まとめ

訪問した2日間には、けんかやもめごとはほとんど見受けられず、子ども同士、子どもと保育士の距離が近く、仲の良いあたたかい様子が伺えます。0、1、2歳児は保育士から大切に見守られ、安心して一日を過ごしていますし、3、4、5歳児はのびのびと元気良く楽しげに過ごしています。探検ごっこでは、たくましさも育っている様子が見られました。また、公園の山が大好きで登ったり降りたり何度も繰り返して体験しています。少々急とも思える坂ですが転ぶこともありませんでした。保育士は、子どもたちが山登り遊びや探検ごっこなどの少し危ないと思われるような遊びを始めても、子どもたちの様子を見守り、適切な声かけをしています。

事業者コメント

受審するにあたって

認可園として3年目を迎え、より充実し安定した保育が定着していくように、今の自分達の保育・園内外の環境・安全衛生などを振り返り、さらに、社会の変化に伴う私たちの役割を再認識する時間になればよいと考え、第三者評価を受審することに致しました。この機会を利用して、園に携わる保育士、調理員、事務職員の、常勤・非常勤を問わず、全職員で取り組むことが今の園に必要なことと考えました。同じテーマを共に考え、再認識し、大人が同じ目線になり互いの思いを知ることが、より子ども達に安定した園生活を保証していくことになると考えました。

今回受審するにあたり、以下の姿勢で取り組みました。

全職員で取り組む時間とする

ありのままの今の保育をしっかりと振り返り考える時間とする

気付きの部分は改善、改良し、保育の向上につなげる時間とする

受審して感じたこと

- 日常の保育・行事等の業務と並行して、職員全員で評価項目を考えることは、かなりの労力と時間を必要としました。しかし、職員間で考え方に温度差はあったものの全職員で評価項目を考えることに取り組めたことによって、保育について話し合う機会が増え、職種や立場の違いにより感じていた疑問の解決につながり、一人ひとりの職員が納得感を得て、互いの立場を理解し認め合うことが出来るようになったと感じています。
- 日常の保育について着眼点を持ち関わることで、養護・教育の細部に渡り、子どもとの関わりの中に存在する深い意味を認識することが出来ました。子ども達の育ちに大切なことを、入園から卒園までを細かく考えることで、自分達の課題を確認する事が出来たと感じています。
- 今まで当たり前のように日常行ってきた業務も、改めて、マニュアル化したり、記録に残すことで、職員間で共通の認識としてより受け止めやすくなりました。又、内容等見直すことが出来てよかったと感じています。
- 私達に求められている役割の多さと重みを全職員が理解することが出来たと感じています。
- 保護者の方が日々お忙しい中、利用者アンケートにご協力くださり、100パーセントに近い提出のあったことに感謝するとともに、お気持ちに答える事の出来るような保育をしていかなければと感じています。
- 評価調査員の方に子ども達の登園から降園を2日間、園に入って見ていただきました。評価調査員の方の見たままのご意見や感想をお聞きすることが出来、自分達だけでは気付けなかったことのご指導をいただいたことは、考える機会を得ることが出来たと同時に、視点を変えて見直す機会をいただいたと感じています。又、おほめいただいたことは、励みとなり、今後さらに生かしていくことが出来ると良いと感じています。

今後に向けて

保育の安定と心地よい環境作りということを第一に、在園する子ども達や保護者にとって、何が大切で何が必要なのか常に考えながら保育に携わってきましたが、地域の子育て世代に向けての支援も、私達に課せられた課題であると認識することが出来ました。在園する子ども達の心地よい安定した生活を保証しながら、地域に根づき、地域に受け入れられ、信頼される存在となれるよう、まず地域の子育て支援に対する現状を把握し、私達の力が役立つことをひとつずつ増やしていくことが出来るようになっていきたいと思っています。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/index.html>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



評価実施機関：

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号18-10

介護サービス情報の公表 神奈川県指定調査機関 08

〒231-0013 横浜市中区住吉町2-26 洋服会館ビル2F

TEL 045-222-6501 FAX 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
